

有料 老人ホーム・高齢者住宅

選別に強くなる！

第3回  
全6回シリーズ

「介護型・自立型有料老人ホームについて Part1」

将来の住まいを探す上で何より大切なのは、  
そこでどんな生活がしたいのか、目的を明確にすること。  
そして同時に、施設ごとに異なる“受け入れ条件”を知ること。  
今回は、有料老人ホームの「介護型」と  
「自立型」の特徴をご紹介します。

1 心身状態と入居のタイミング

前回（11月24日付け朝刊）、高齢者向け施設は「公的施設」「有料老人ホーム」「その他の民間施設」の3つに大別されるとお話ししました。これらはまた、受け入れ条件から「介護型」と「自立型」の2つに分けることができます。

「介護型」は、要介護認定を受けている方が入居できる施設。「自立型」は、身のまわりのことをある程度自分でできる方が対象。つまり「介護型」か「自立型」かは、いわば施設側の“受け入れ条件”であり、条件に合わない場合は入居することができません。

たとえば、気に入った「自立型」有料老人ホームを見つけたとします。しかし、「まだ元気だから…」と入居を先延ばしにしている間に要介護認定を受けてしまったら、そこには入居できなくなってしまうという場合もあるのです。

2 「介護型」と「自立型」で異なる着眼点

では、それぞれを選ぶ際の着眼点を見ていきましょう。

まずは予算。入居一時金は、「自立型」の方が比較的高額。元気な方が対象なので、居室や共用スペースが充実しているところが多く、そうした設備の利用権に加えて、将来介護が必要になった時の対応なども含まれるため、高額になるようです。ただし、それらの設備が自分に必要なものかどうか見極めることも重要です。一方「介護型」は、サービス内容や人員、設備などが施設によって異なるため、金額も大きく違います。金額とその内容が納得できるものかどうか確かめましょう。

次に立地。「自立型」の場合は本人が探すことが多いので、本人の希望に従って選べますが、「介護型」は家族など本人以外の方が探すケースが大半。その結果、家族が訪問しやすい近場を選ばれることが多いようです。しかし本来、立地の良さよりもサービス内容の方が重要なのは、何のために施設に入居するのかわきちんと考えて選ぶ必要があります。

今回のまとめ タイプによって選ぶ条件も違う

入居される方の心身状態によって、「介護型」か「自立型」かが決まります。そして、「介護型」と「自立型」とでは、選ぶ際の着眼点が変わります。予算、立地以外の着眼点については、次回詳しくご紹介いたします。



やまなか ゆみ  
講師：山中由美さん  
株式会社Pro・visionチーフ  
コンサルタント。シニア生活  
情報誌「もも百歳」の編集  
に携わり国内外の老人ホーム  
300か所以上を取材。